

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4590200079 | | |
| 法人名 | 医療法人 豊寿会 | | |
| 事業所名 | グループホームふれあい園 | ユニット名 | 2号棟 |
| 所在地 | 都城市高崎町東霧島752番地3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年4月27日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年6月13日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590200079&SCD=320&PCD=45 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 |
| 訪問調査日 | 平成24年5月22日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号棟 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 自施設独自の理念を掲げ、玄関ホールに掲示し、日常の中で常に目につき理念を意識した認知症ケアを心掛けるようにしている。新人職員には、入社時に理念について説明を行っている。 | | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 園の夏祭りには、民生委員様や家族の協力を頂き、地域の方の参加もあった。地域のイベントへ参加しているが、日常的な交流は行っていない。 | | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 管理者、責任者が認知症サポーターである。又、医師に自施設の支援や体制について講演を行った。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に一度開催し、行事報告や取組み、困っていること等を話し合い、地域や家族から意見を頂きながら参考にしたり、情報交換の場としてサービスの質の向上につなげている。 | | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域のケアマネジャー会に参加。市町村担当者、地域包括支援センター、社協との交流もあり、協力関係を築けている。 | | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 月に1回のミーティングの時に身体拘束委員会を開催し、身体拘束が及ぼす入所者様への影響や知識の習得を話し合っている。また、自施設では、危険の恐れがある場合にのみ施錠を行う事があるが、施錠をせず解放した生活が送れるようにしている。 | | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待については、ミーティングの時に勉強会を行っている。虐待が意味する物が行動だけでなく、言葉が虐待になる事も話し合いの中で勉強している。職員が虐待に対しての意識を持ち、行わないケアを心掛けている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号棟 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修への参加、ミーティングでの勉強会を行っている。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は、利用者家族とゆっくりと話せる環境を作り、ニーズをしっかりと捉えられるように十分な説明を行い、理解、納得して頂いている。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に御意見箱を設置している。面会時は、家族と話す時間を設け、意見や要望があった場合は管理者に報告しており、改善点は家族にも園便り等で報告している。 | | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 常に、日常の中で話をしている。また、職員にも意見がないか、管理者からも尋ねられる事が多く、話せる雰囲気作りが出来ている。 | | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与や賞与での評価や、見直しが行われている。職員一人ひとりの仕事に対する思いを把握し、向上心が持てるような環境を作れている。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 勤務年数や資格に応じた研修の参加や年間の研修計画を作成し、参加している。その他の研修の案内も紹介し、自己のスキルアップに対しても機会を作っている。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のケアマネ会やGH協議会への参加、指導者会に参加し、ネットワーク作りや意見や情報の交換を行っているが、特定の研修以外の訪問は出来ていない。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号棟 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | センター方式を使用し、ご本人の生活歴や環境、ニーズを伺いながら、その人らしく生活出来るように支援をしている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 御自宅や入所前の状況、ご家族の意向や施設での生活に対しての要望を伺い、話しやすい関係作りに努めている。また、面会時も現在の状況やそれに対しての意向を伺っている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族の状況を十分に把握した上で話し合い、情報の提供や支援を行っている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入所者様の出来る事を活かしながら、今までの生活を少しずつでも継続出来るように支援している。言葉や表情からの思いを理解し、個性を十分に表出できるように努めている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入所者様とご家族の関係を理解し、より良い関係が続けていけるように努めている。毎月の園便りや新聞でご本人の様子をお伝えしたり、ご家族の相談もお受けしている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 会いたい方、行きたい場所がある方は、ご家族に伝えご協力を頂きながら、御面会に来て頂いたり、外出の機会を設けている。 | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入所者様の個性や状態を考慮しながら、関わりが増えるように努めている。一人で過ごす時間も大切に、暮らししていく中での楽しみが持てるように支援している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号棟 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後の相談はないが、依頼があれば、情報提供を行っている。相談は常時受け付けられる体制である。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式を活用したプランを作成しており、個人記録には必ず入所者様の言葉や様子を残り、変化や思いを共有したケアに努めている。 | | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時の情報や日常の中で知り得た事は、記録やシートに記入している。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人記録や食事、水分摂取量、排泄状況、過ごし方を記録し、その方の日々の変化や過ごし方を把握し、スタッフで共有している。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメント、モニタリングを行い、担当者会議でスタッフの情報からその方の課題やケアのアイデアを出し合っている。家族に現状を伝えたり、要望、意向を伺っている。 | | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランに沿った記録や気づき、変化をその方の言葉、職員の言葉をそのまま記録しており、申し送りで情報共有している。介護計画に反映出来る記録を常に心掛けている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人や家族の状況の変化やニーズに、よりよい支援やケアが行えるように協力を頂きながら、実現出来るようにしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号棟 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の公園での花見やドライブ、近所への買い物へ出掛けたり、地域特有の習わしの情報を御家族や民生委員様から教えて頂いている。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 医療法人なので、本院と連携を取り、ご本人・ご家族の希望や医師の指示を双方に伝えながら、必要な受診の支援を行っている。 | | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の中での変化や気づきを看護師や本院へ連絡し、状況に対応した受診体制である。月2回の定期診察の際は、受診間の情報提供表を作成し、医師に提出している。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際の情報提供や早期退院に向けて、病院、家族との情報交換を行っている。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に伺っている。また、状態の変化に応じ再度話し合いを行い、意向を尊重し、園のターミナルケアについての方針を説明し、理解して頂いている。 | | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ミーティングやその場面にに応じて講習を行っている。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、昼夜それぞれを設定した防災訓練を行っている。地区の消防団にも協力の依頼をしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号棟 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 介護をする立場にならず、理念を常に意識した声掛け、関わりを職員には指導している。 | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の会話や行動の中から思いや希望を聞いたり、くみ取れる信頼関係作りを心掛け、その方の自己決定出来る能力に応じた場面作りが増えるよう、関わるようにしている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その方のペースや思いを大切にし、自分に合った時間の過ごし方を支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 長年化粧をされてきた方がいつまでも出来るように勧めたり、他の方にも伺いながら化粧をしたり、身だしなみを整えられるように準備をしている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理の下ごしらえ、味付け、注ぎ分け、片付けを日々の中で、一緒に行っている。 | | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量の記録をし、摂取量を確認しながら不足時はこまめな補給を行っている。食事の進まない方は時間の調節をし、一人ひとりの招待に合った形態で提供している。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアと夕食後の義歯洗浄を必ず行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号棟 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 可能な限りトイレでの排泄が出来るように職員全員が努めている。排泄チェック表を記入し、その方のパターンや前回の排泄状況を把握することで、失敗を減らすようにしている。 | | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便の状態を把握し、服薬の調整や水分量のチェックや運動を勧め、薬だけに頼らない便秘予防に取り組んでいる。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は決まっているが、本人の希望に可能な限り応じている。両棟交互に設定している為、状況に合わせた入浴が出来ている。 | | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間の睡眠状態の申し送りを必ず行っている。状況に応じた休息や、安眠出来るように寝具の清潔や調整、又、日中の運動や日光浴を勧めている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 病名と服薬している情報は記録しており、処方時の説明も保管し、職員が把握出来るようにしている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの情報や出来る事を活かせる場面作りを行っている。又、好きな事を楽しめる環境、散歩やドライブ、読書等の気分転換の支援をしている。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は外気浴を行っている。また、希望がある際は、ご家族と相談し協力を得たり、承諾を得て職員と出掛けたりしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号棟 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持されている方はほとんどいらっしやらないが、自分の好きな物を家族に持って来て頂いたり、自分で買ったりされる方もおられる。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話をしたい方は職員が繋いだり、ご家族へ伝えたりしている。手紙のやり取りも楽しみにされている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感が味わえるように花を飾ったり、壁面を替えたりしている。季節によって、日差しの入り具合を調節するようにしている。 | | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファや食卓で過ごされたり、居室で寛がれたり、その方の過ごし方が出来ている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族に協力をお願いしているが、新しく購入される事が多い。 | | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室が分かりやすいように表札を作っている。園内は自由に移動が出来るように環境整備を行っている。車椅子の方がほとんどなので、行き来が安全に出来るように、常に配慮している。 | | | |